

令和5年度 学力向上指導改善プラン

三田市立藍中学校長 榎並 由美

学校教育目標		心豊かにたくましく共に生きる生徒の育成				
推進主体		管理職、研究推進、教育課程、各教科代表による 研究推進委員会を中心に推進				
学力に関する前年度の状況・経年の課題等						
学力の状況	国語	○助動詞の動きについて理解し、目的に応じて使う(選択式の問題)、漢字を正しく書く(短答式の問題)、根拠を明確にして書く(記述式の問題)など、問題形式を問わず言葉の使い方や書くことの能力向上についている。 ◆表現技法を問われ、比喩法を答える問では、正答するには2つの条件があったものの、1つしか条件を満たしていないものが多かった。また「比喩」「明喻」「直喩」などの言語の知識が定着していなかった。	「学校・家庭・地域が連携し、自ら学ぶ楽しさ、わかる喜びを実感できる学習指導の在り方～特別支援教育の視点を生かして～」を研究テーマとして、すべての生徒に分かりやすい学習指導の工夫、授業改善につながる学習指導のための評価に取り組み、様々な学力を身につけさせる。 ・授業のユニバーサルデザイン化を進め、基礎基本の定着をはかる。	「講師を招き、授業改善に向けて授業力向上のために研修を行い、授業公開週間を年2回設定して研修を深める。 ・ICT機器を活用した資料の提示や板書などの工夫により、授業内容を理解しやすくする。 ・学習の「めあて」を意識させ、授業の流れを明確にすることで、主体的に学ぶ姿勢を培う。また、「振り返り」を書くことで、学習内容の定着と学ぶ意欲の向上を図る。 ・資料を読み解く機会を多く取り入れ、資料を比較したり自分の考えを構築したりする体験を大切に。 ・目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして文を書く力を身に付けさせる。	「全国学力・学習状況の分析より 【国語】 ○ほとんどの領域で全国平均より高い平均正答率で学力の定着が見られた。 ◆言葉の特徴や使い方にに関する事項」について課題がある。 【数学】 ○「関数」「データの活用」の領域では全国平均を上回り、理解できている生徒が多い。 ◆記述式の問題では無回答率が高い傾向が見られる。 【英語】 ○「聞くこと」「読むこと」の領域においては、全国や兵庫県の平均を上回り、学力の定着が見られた。 ◆「書くこと」の領域においては、各問題の解答率が相対的に低い。 ◆「話すこと」の領域においては、無回答率が高く、課題である。	評価
		算数・数学	○連立方程式を解くなど基本的な計算ができる。また、ある事象が起こる確率を的確に選ぶことができる。証明で用いられている三角形の合同条件を書ける。 ◆一次関数の変化の割合の意味が理解できていない。 ◆結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見出して説明することや、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。 ◆筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。	・朝の「学習タイム」や放課後の「ひょうごがんばりタイム」の活用により、基礎・基本や学習習慣の定着を進める。	・「全国学力・学習状況調査の合同分析を三枚校で実施し、その後合同研修会を実施する。 ・小中教員の定期的な交流を行い、共通理解のもと学習指導や生活指導に取り組む。 ・学校園所の授業参観の機会を設定し、教師間の交流を図る。 ・小中で教科指導について連携を図る。	○道徳の授業や人権講演会から、「自立」や「共生」には人権意識が大切なことを感じ取っていた。 ◆おかしなことには声を上げる必要があるとは感じているが、普段の生活の中ではまわりに流されてしまうように課題がある。
	ICT機器を効果的に活用した取組状況	○調べ学習や、自分の考えをまとめて意見交流をするなどにタブレット端末が活用されている。 ○大規模な学習内容を全体で把握しやすくなった。 ○デジタル教科書の活用では、解説の動画などにより理解しやすくなった。 ◆著作権やプライバシー保護について理解を深め、情報を収集し、それを活用して表現することに課題がある。	・中学校区3校による、交流研修の充実(三枚研)。 ・学力向上に向けた小中連携の推進。 ・9年間の学びに向けた小中一貫教育の推進	・家庭学習の定着を図るため、小学校の取り組みを参考にし、毎日の学習習慣を身に付けさせる。 ・テストに向けた学習計画を立ててテスト勉強に取り組むのと同じように、普段から計画的に学習に取り組めるようにする。 ・予習復習の習慣を身に付けさせる。	○家庭学習を計画的に進めている生徒が多く、その成果が出ている。 ◆国語や英語に対して苦手意識を持っている生徒が数学に比べて多いと考えられる。 ◆家庭学習時間の長さについては、全国や兵庫県と比べて短い点が課題である。	A
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	○テスト前は、計画的に学習を行うことができるようになってきている。 ◆学力の定着に二極化の傾向が見られる。	・計画的に家庭学習をする習慣を身につけさせる。 ・家庭への啓発及び連携により、家庭学習の定着をより進める。	○1日の読書が30分以上している人数が全体の35%を超え、ふえてきている。 ◆読書をする時間を確保し、読書を通して読書の習慣や読解力をつける必要がある。 ◆読み取った情報を正確に理解し、説明したり、文章に書いたりするなど適切に表現する力を育成する。	A	
	授業等からうかがえる状況(各教科)	○落ち着いた学習に取り組める生徒が増えてきている。 ◆通達だけでなく、自分で考えて自主学習を行うことに課題がある。	・個別最適な学習の充実のために、個別の目標を設定する。 ・間違いを恐れずに、自分の考えを発表しようとする態度と、それを受け入れられる学校の雰囲気作りを行う。 ・1人1台端末の使い方のルールやマナーを定着させる。 ・教育相談体制の充実を図り、生徒に共感し寄り添う指導の深化をさせ、学びの環境を整え、学習意欲を高める。	○タブレット端末を使って各自が問題演習をする朝学習が定着している。 ◆タブレット端末のドリル機能などを活用し、個別最適な学びを進め、個々に合わせた学習の個別化や指導の個別化を進める。 ◆発達段階に応じた情報モラル教育やタブレット端末の適切な利用を進める。	B	
	慣学・力生向上に慣れる等の状況	○社会的に規範意識が高く、学習意欲についてはおおむね良好である。と判断できる。 ◆「普段、1日当たりどれだけの時間、テレビゲームをしますか」の質問に対して3時間以上の回答比率が高い。 ◆携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っていない人が3割近くいるので、学校でも「家庭でのルールづくり」について再度しっかり呼びかける。 ○社会や学校で決められたルールやマナーを守っている。 ◆家庭学習の習慣に課題がある。	・朝学習タイム「読書タイム」の活用などにより、読書の習慣を身につけさせる。 ・委員会や国語の授業を活用した図書室の利用機会を増やし、読書に親しむ。	・夢や目標、志をしっかり持ち、それを語るができるように、将来の夢や目標を持つことができるように、キャリア教育の充実を図る。 ・トライやるウィークを通して、地域の仕事に関心をもち、地域に対して興味や関心をもちたい。	○トライやるウィークを通して地域の職業を体験し、地域のことにに対して関心を深めることができた。 ○夏祭りなどの地域の行事に参加し、地域を盛り上げる活動を行った。 ○1月17日に「ひょうご安全の日」に防災学習を、地域の方と一緒に進めることができた。	A
校内研究・研究・研修の状況	○インクルーシブ教育の観点から「誰も分かる授業づくり」を目指して、「めあて」や学習の流れを明確にして「ふり返り」をすることで学力の定着を図っている。 ◆評価基準に照らし、個に応じた支援を考える必要がある。 ○1人1台の端末を活用した授業を各教科で行い、教科の枠を超えて効果的な端末の使い方について研修を行った。 ◆すべての生徒が基礎基本が定着するよう取り組む。	・生徒が自分らしい生き方を実現する力を育んでいくために、将来の夢や目標を持つことができるように、キャリア教育の充実を図る。 ・トライやるウィークを通して、地域の仕事に関心をもち、地域に対して興味や関心をもちたい。	・夢や目標、志をしっかり持ち、それを語るができるように、将来の夢や目標を持つことができるように、キャリア教育の充実を図る。 ・トライやるウィークを通して、地域の仕事に関心をもち、地域に対して興味や関心をもちたい。			
家庭・携種間連	○学校の教育活動には協力的である。 ○生徒は地域の活動にも積極的に参加している。 ○人権教育において藍中学校区3校で合同の研修を行い、人権意識を高めることができた。 ◆小中の連携を深め、継続的な学力向上の取り組みが必要である。	・生徒が自分らしい生き方を実現する力を育んでいくために、将来の夢や目標を持つことができるように、キャリア教育の充実を図る。 ・トライやるウィークを通して、地域の仕事に関心をもち、地域に対して興味や関心をもちたい。	・夢や目標、志をしっかり持ち、それを語るができるように、将来の夢や目標を持つことができるように、キャリア教育の充実を図る。 ・トライやるウィークを通して、地域の仕事に関心をもち、地域に対して興味や関心をもちたい。			
1. 授業改善および学習習慣の定着						
2. 人権教育を基盤にした小中連携						
3. 家庭学習の充実						
4. 読書活動の充実						
5. 学習環境の整備と学習意欲の向上						
6. 地域との関わりとキャリア教育						